

研究の背景・目的

後志森林管理署管内において野兎による獣害が発生し、平成30年度、令和元年度の植栽箇所では約33ha、5万本のカラマツ類の苗木が被害を受け、令和2年度に第1報として報告しました。当署において過去類を見ない規模のエゾキウサギによる被害について、原因究明及び対策等を検討していく予定でしたが、被害地において今年度新たにエゾシカによる被害が発生し、方針転換せざるを得ない状況となったため、被害の概要及び今後の取扱いについて報告します。

研究の内容・成果

第1報では、カラマツ、クリーンラーチに被害が発生し、図1に示す壮瞥町南久保内地区が特に顕著でした。写真1のとおり幹の先端が斜めに切り落とされており、エゾキウサギの被害によるものと推測されました。被害は植栽木35,790本ほぼ全量に及んでいます。



図1 被害区域図

＜壮瞥町南久保内＞ 令和3年7月に壮瞥町南久保内地区の被害地の現地確認を行った際は、写真2のとおり、側枝が上方に成長しており、そのまま梢端がエゾキウサギの届かない位置まで成長すれば、被害の対策は必要ないと考えられました。しかし、令和3年11月に確認を行った際、写真3、4のとおり、横枝も含む多くの枝先に引きちぎられたような跡があり、エゾシカの食害と推察される被害が発生しました。過去にエゾキウサギに被害を受けたカラマツで、エゾシカの食害も同じく、ほぼ全量で被害が見られています。

＜登別＞ 図1に示す登別地区において、令和3年9月に3.04ha、9120本のクリーンラーチを植栽しましたが、エゾシカのものと思われる被害が発生し、12月に現地にて標準地調査を行った結果、約72%が被害を受けていました。その後、自動撮影カメラによる定点撮影の結果、写真5、6のとおりエゾシカの姿が確認されています。食痕及び定点撮影の結果から、現状ではエゾシカによる被害と考えられます。



＜有珠山＞ 図1に示す有珠山地区では、第1報では、植栽木の被害率は10～30%程度でしたが、今年度現地確認を行った結果、成長が旺盛であり、エゾシカ及びエゾキウサギが届かない2m程度の高さまで成長しているため、被害は免れたと考えられます。

今後の展開

今年度の調査では、エゾキウサギ以上にエゾシカの被害が顕著となりました。エゾシカの届かない範囲まで成長することができれば、成林することは可能と考えられますが、複数年で繰り返し被害を受けた場合、どのように成長するのかは不明であるため、今後の展開を図2のとおり2つに分けて検討していきます。



図2 今後の研究の展開